

静岡県透析医会会長 故 菅原 博厚先生を偲んで

追悼のことは

土田正義

静岡県透析医会会長、菅原泌尿器科病院院長故菅原博厚博士の霊前に謹んで追悼の辞をささげます。私は博士より8歳の年上であり、長年の付き合いから故人に敬語を使うのも他人行儀な感じがするので、生前同様菅原君と呼ぶことをお許し下さい。

菅原君は昭和37年に東北大学医学部を卒業し、当時小生が勤務していた東北大学医学部泌尿器科教室に入局しました。当時血液透析は全国的にもほとんど注目されず、まして東北地方では私たち人工腎臓研究班だけが、細々と人工腎臓装置の改良をしながら急性腎不全の透析を手掛けていた状態で、透析効率はきわめて悪く、成功例がほとんど無く、将来の方針も立たず、暗然たる思いで遂方に暮れていました。

新たに研究班に加わった菅原君は頭脳明敏で実行力を伴っていました。君はまず当時使われていた各種の透析膜の性状を綿密に分析した結果、コルプのツインコイルが特に優れていると結論し、これからはツインコイルを使おうということになりました。

そこへたまたま異型輸血で無尿が3日も続いている無尿患者が入院して来ました。しかし当時は保健が効きませんでしたから、コイルを購入する代金の捻出にも難渋したのです。

この時の窮状を救ってくれたのが菅原君です。君は患者が助からない場合はコイルの代金を透析班が負担するという条件で、家族と話し合い、代金を払って貰うのに成功しました。米国から空輸されたコイルを仙台空港で受取り、規定の透析時間を12時間に延長し、血中BUNが低下しても利尿が起こらなかった時の不安、逆に利尿がついて一日尿量が4L以上に達した時の慌てぶり、そして患者の笑顔を見た時の君の悦びの顔が脳裏を去来します。

菅原君のもう一つ大きな功績を紹介します。昭和40年代に入り、血液透析が普及する様になって、仙台社会保険病院故渋谷正三院長の依頼で院内敷地に腎センターを作ることになりましたが、この病院には簡易水道しか無く、しかも常時水が白濁しているのに驚いたものです。この時も私の頼みに君は持ち前の馬力で透析水の浄化に成功し、東北最初の大規模な施設が誕生しました。

すでに講師に昇任していた菅原君は昭和52年から静岡済生会病院に泌尿器科科長として赴任しましたが、今度は、私が移籍した秋田大学関連教育病院の指導医として、また同校の非常勤講師として指導に当たってくれました。こうして直接、先生の薫陶を受けた医局員、現在鳥取大学泌尿器科を主宰している宮川教授をはじめ、多数が泌尿器科医としてまた透析医として各地で活躍しています。

昭和56年には、静岡県で民間病院として初めての腎臓移植を行い成功させたことは、多くの透析治療を受けている腎不全患者にとって明るいニュースとして勇気づけるものでした。さらに君は静岡県透析医会会長として広く、腎臓病対策に尽力し、昭和59年からは菅原泌尿器科を開業し、院長として地域医療に、ますます多忙な毎日を過ごしていました。

菅原君は、生来健康に恵まれ、斗酒尚辞せずという偉丈夫でしたが、好事魔多し現代の医学をもってしてもどうにもならない病魔に襲われ、55歳で不帰の人となりました。

君のあまりにも早い逝去に、ご遺族の悲しみの深さは察するに余りありますが、幸い遺児の元君は名古屋大学医学部に在学中です。私たち同窓会員一同は遺族の方々をお守りするとともに、君の遺志を生かして、腎不全に対する医療の向上を計るべく、一同努力するつもりです。

菅原君、どうぞ安らかにお眠り下さい。

合 掌

平成4年6月

静岡県透析医会会長故菅原博厚先生ご略歴

生年月日 昭和11年11月21日
昭和37年3月 東北大学医学部卒業
昭和37年4月 公立気仙沼病院にて実地修練
昭和38年4月 東北大学大学院医学研究科入学
昭和38年5月 医師国家試験合格
昭和42年3月 東北大学大学院卒業、医学博士
昭和42年4月 厚生技官（国立西多賀療養所泌尿器科医長）
昭和43年4月 文部教官（東北大学医学部助手）
昭和46年4月 文部教官（東北大学医学部講師）
昭和51年4月 東北大学附属病院更生医療指定医（腎臓）
昭和52年4月 静岡済生会病院泌尿器科医長
昭和52年7月 静岡済生会病院更生医療指定医（腎臓）
昭和59年7月 菅原泌尿器科開業
平成4年6月8日 御永眠